暮らしを楽しむ豊かな個性

完成現場報告
藤枝市／『共の家』

文・写真／ココラボ　山崎健治

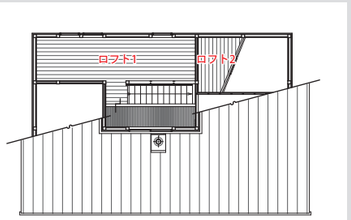
左） ダイニングテーブルを中心に置いた広間。山桜の床板をベースにして、障子を入れた大きなガラス窓や薪ストーブ、アイアンでつくられた階段などが合わせられ、個性的で豊かな空間が生まれた。ダイニングテーブルと椅子、ペンダント照明は、通信設置店でもあるキトさんとバーズさんの合わせ技。

上） 北側進入路からの外観。黒いガルバリウム鋼板の外壁に、漆喰と杉板をポイントで使用した。漆喰壁には表札やポスト、照明等をあらかじめ取り付け、機能を合わせ持つ壁をつくった。

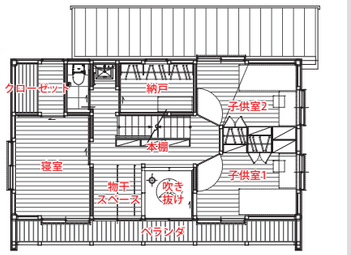
今年も桜が満開の季節になり、庭のユキヤナギやトサミズキも鮮やかな春の色を見せ始めました。まだまだ寒い季節だと思っていたのもつかの間、最近では暖かな日差しと共に春の訪れを感じる季節になりました。春と言えば満開の桜をイメージする方も多いと思いますが、桜は綺麗な花だけでなく、昔から建築材料として多く使われている事をご存知ですか？　桜と言ってもみなさんがよく目にするソメイヨシノではなく、ヤマザクラやミズメザクラといった樹種が使われますが、緻密な木目で強度や艶があり、床板や造作材、家具材として使われています。今回はこの桜の木を使って家づくりを行った『共の家』のSさんの家をご紹介し、桜の木の持つ独特な雰囲気と共に、個性的なロートアイアンやステンドグラスを取り入れた内部空間をお伝えしたいと思います。

好みと暮らしに合った床板選び

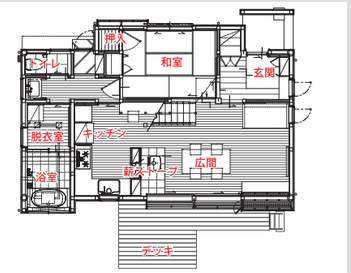
『共の家』で使われた桜の木は山桜。主に広間と玄関の床板として使いました。広間には巾9㎝厚み1.5㎝の乱尺と呼ばれる床板を張り、玄関には巾20㎝厚み3㎝の厚板を使いました。山桜は強度があり、同じ広葉樹の栗や鬼胡桃に比べても硬く重量感があります。また楓や樺（カバ）材と同じ散孔材に属し、優しい木目で艶があるのが特徴です。山桜はボルドー色の少し個性的な色合いで、杉や桧（ヒノキ）、栗などに比べて落ち着きがあります。床板の打合せでは色々な木のサンプルを見ていただき、堅さや色合いなどを確かめながら自分たちに合った床板を決定していただいています。床板は部屋の雰囲気を決めると言ってもいいほど重要な素材で最後まで悩む方も多くいますが、Sさんは迷わず山桜を選択しました。好みの色合いで選んでいただきましたが、プランから見ても良い選択だったと思います。広間はダイニングテーブルを主役に置いたスペースで、椅子での生活が主になります。毎日椅子を引いたり座ったりを繰り返す事を考えると、やはり硬めの床板を選ぶと安心です。杉板などの優しい床板もゴロンとするには心地良いですが、毎日の暮らし方に合った床板選びをする事でストレス無く生活していただく事ができると思います。



ロフト



2F平面図



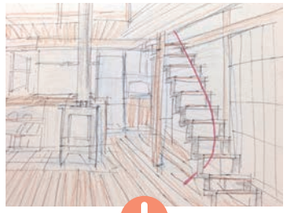
1F平面図

仕様内容

	家族構成	家族4人
	敷地面積	234.49㎡
	建築面積	74.59㎡
	延べ床面積	111.82㎡
	構法	在来工法
外部仕上	屋根	ガルバリウム鋼板　タテハゼ葺き
	外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼り 一部漆喰コテ押え
	外部建具	木製オリジナル建具　桧、ナラ、ヒバ ペアガラス アルミサッシ(ペアガラス)
内部仕上	天井仕上	化粧野地板現し　杉板本実タテ張り 厚30㎜ 杉板本実張り 厚12㎜ 青森ヒバF1本実板張り 厚15㎜
	壁	漆喰塗、クロス貼、青森ヒバF1本実板張り 厚15㎜
	床	山桜本実乱尺張り 厚15㎜ 杉本実板張り 厚30㎜ 青森ヒバF1本実板張り 厚15㎜
	内部建具	オリジナル木製建具
設備	キッチン	ステンレスヘアーライン天板オリジナルキッチン
	洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板オリジナル洗面化粧台
	浴室	オリジナル浴室 床、壁:サーモタイル300角貼り
	設計者	山﨑健治
	施工	有限会社こころ木造建築研究所
	竣工	平成26年6月

コラボとディスカッションで生まれた赤い曲線手摺

広間でひと際目を引く赤い階段手摺が実現できたのは、お施主さん・設計者・制作者の3者のディスカッションがあったから。デザインや強度、納まりなどがその場で同時に検討され、内容が詰まっていく。

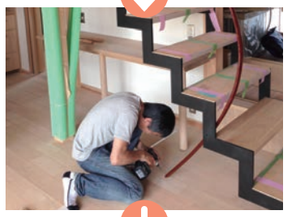


3者で考えた手摺のスケッチ

打合せの際に行ったスケッチタイム。お施主さんと設計者(設計スタッフも)製作者の3者がスケッチしながら案を出し合った。最終的に決まった案は設計スタッフの曲線に。スケッチと同時に納まりも検討し、ぎゅっと詰まったデザインに。

現場で合せた試作品

今回の手摺は難度の高い曲線形状。手摺の一部を制作して現場合わせを行った。カーブの大きさや使い勝手の良さも検討し、最終形状を決めた。



塗装と最終取り付け

形状が決まった所で手摺を塗装屋さんへ。塗装も特殊なカシュー塗り。本来襖の枠に塗る塗装ですが、ふっくらと優しい塗装が良いという事でお願いし快く引き受けていただいた。取り付けもバッチリ！　強度も問題なく出来上がった。

はじめてのコラボ

今回は色々な事が初めてでしたが中でもアイアンの上にカシューを塗るというチャレンジが印象的。取り付けの最後にアイアンの製作者と塗装職人の握手で完成。初めてのコラボが大成功し、今後も期待大。

右）　玄関正面に設けた建具にステンドグラスを取り入れた。数種類の珍しいガラスが使われ複雑な表情に仕上がっている。ステンドグラスと合わせてつくられた照明器具は、ステンレスでつくられながらも紙のような表情をあらわし、優しい光を放っている。

上）　段板を支えているギザギザのアイアンは、16㎜の厚いプレートをレーザーカットしてつくられている。精度が良くピッタリと納める技術に感服。赤い曲線でつくられた階段手摺がこの部屋の一番のポイント。シャープなラインだが、強度も十分に確保している。

魅せられたロートアイアンとステンドグラス

『共の家』は、山桜の床板と合わせて目を引くのがアイアンでつくられた階段や玄関と広間をつなぐ建具に使われたステンドグラスです。設計の早い段階で、広間の中心にある階段はなるべく軽やかに見えるようにアイアンで製作する計画としました。折角アイアンを使うのならその工房を訪ねてみようという事で、建築途中にSさんと一緒にアトリエプラトーさんの工房に出掛け、製作の様子を拝見しながら階段手摺の打合せを行いました。当初はシンプルな形状で製作しようと考えていましたが、みんなで話をしているうちに段々と話がエスカレートし、それぞれがスケッチをしてみる事に。こんな感じ…などとイメージを見せながら話をし、最終的に曲線の斬新な手摺に。それならば色を付けてみようという事でなんと赤に…。で更に鉄に色を付けるなら肉厚のあるカシュー塗りはどうか？　という話になり早速いつも塗装をお願いしている『青の家』のSさんに電話で確認しOK！　持ち易さや製作の仕方、取り付け方や塗装など、それぞれが上手くつながり、全く予想していなかった意外な手摺が生まれました。その後試作を現場で合わせたり塗装のサンプルをつくったりと進んで行き、曲線の赤いカシュー塗りの手摺が出来上がりました。

つくり手側も苦労しつつも楽しませてもらい、出来上がりはみんなで喜べる作品になりました。これもひとつのものづくりの楽しさ。貴重な経験をさせていただきSさんにはとても感謝しています。ロートアイアンと合わせて工房で魅せられたのがステンドグラス。アトリエプラトーさんはご夫婦でロートアイアンとステンドグラスを製作しています。工房で目に留まったステンドグラスを是非取り入れたいという事で、急遽広間の建具に入れてもらう事になりました。好みのガラスを伝え、デザインはプラトー流にお任せ。階段の手摺や照明器具と合わせて、独特の雰囲気のある空間になりました。

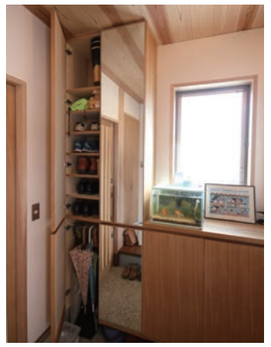
……『共の家』の個性的な工夫とアイデアをご紹介……

薪ストーブの上部を１坪の吹抜けとし、その近くに物干スペースを設けた。ストーブの熱で洗濯物が良く乾くと好評。室内なので花粉対策としても嬉しい。

カウンターと合わせたコの字型のキッチンを製作。カウンターやシンク、コンロ下には引き出しやガラス扉を設け、広間から見えない部分に収納を確保。

広間と繋がる場所に６帖の和室を設けた。和室には地窓を設け、広間と合わせて南北の通風を確保している。

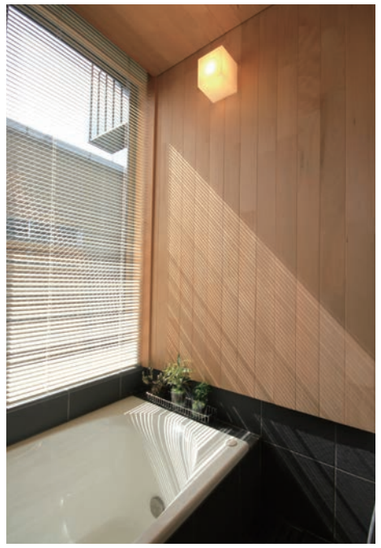
１階の洗面化粧台。カウンター以外は建具屋が製作。鏡の中やカウンター下に適度な収納がつくられている。



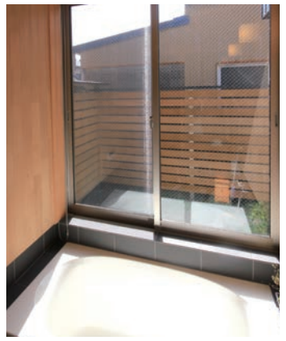
玄関に設けた鏡付きの玄関収納。靴以外に傘を収納するスペースを設け、コンパクトに収納出来る工夫をした。

２階からロフトへのスキップ階段。１階への採光と通風を考慮した。更に視線を通す事で家族同士の顔も見える。

２階ホールに設けた本棚。奥さんの仕事関係の絵本が置かれ、中段は表紙が見やすいように工夫された棚を設けた。



大きな南の窓からさんさんと光が入り、暖かく気持ちの良い浴室。窓は人目がつかない場所に設けつつブラインドでプライバシーを保っている。



窓の外に板塀を設けて隣家が見えないようにしている。将来はこの場所に小さな庭をつくり浴室からの景色を楽しむ計画。

脱衣室と浴室の壁と天井に同じ青森ヒバを張り、統一感と開放感のある水廻り空間とした。浴室と脱衣室の仕切りを合わせガラスとする事で光が脱衣室まで届き、どちらも明るく清潔感のある水廻りになった。

開放的な木のお風呂

家づくりの中でのポイントは住まい手によって色々な要望があると思いますが、Sさんにとっては開放的なお風呂をつくる事も重要なポイントでした。一日の中でお風呂の時間は短いものですが、ほっとできる時間として大切にしている方も多いと思います。また、お風呂は夜入るだけでなく、朝や休日の昼間、夏の夕方に入るとまた違った雰囲気を楽しむ事ができます。『共の家』のSさんもそんなお風呂時間を楽しみにしたいという事で、開放的で木の香りのする浴室をつくりました。浴室の壁や天井にはココラボ定番の青森ヒバの板を使い、浴室と繋がった脱衣室にも同じ素材を使いました。浴室には壁一面の大きな窓を設け、脱衣室との間にも大きなガラスを使いました。開放感と共に季節や時間の移ろいの中で様々に変化を感じられる浴室です。写真撮影でお伺いした日も浴室に日差しが差し込み、とても気持ち良さそうな浴室だと思いました。窓の外の板塀が出来上がり、これから徐々に植栽を入れていく計画。どんな風景が見られるか、私も楽しみにしたいと思います。

好みに合った個性的な住まい

昨年の6月に完成した『共の家』も今年の4月で10ヶ月が経過します。完成時には入っていなかった家具やインテリアなどが徐々に加わり、最近はSさんらしさのあらわれる家になってきたと感じます。山桜の床板やロートアイアンなど、建築の段階でSさんと打合せをしながら計画してきた事に加え、大切に持っていたものや新しく加わったものなど、家には色々なものがあり、また変化していきます。新しい家になったらこうしようと夢を描いている事も多いと思いますが、人には今までの暮らしや経験などから生まれた潜在的な好みがあると思います。今回『共の家』の家づくりを通して、そこに暮らす人の好みを上手く引き出し、その人が自然体で心地良く暮らす事のできる家、いい意味で個性的な家づくりをしていく事も大切な家づくりのひとつだと感じました。骨格や使う素材は同じでも、少しのアレンジや素材の使い方などを工夫し、その人に合った使い方や合わせ方を考えた幅の広い提案が大切で、毎日を楽しめる心地良い暮らしに結びついていくのだと思います。まだまだ十分な提案ができるとはいえませんが、素材の特徴や使い方を学び、その人に合った個性豊かな家づくりを提案していきたいと思います。